

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO



創立：1980年(昭和55年)11月10日
 会長：泉 憲二
 幹事：亀井 直人
 クラブ委員長：山口 哲司
 例会日：毎週木曜日PM12:30～
 会場：ヒルトン名古屋

事務局：460-0008
 名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
 TEL：052-211-3803
 FAX：052-211-2623
 MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
 URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1651回例会

～ロータリー親睦活動月間～
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2014年6月12日(木) 晴 第47回

司 会：広瀬弘幸会場委員
 斉 唱：「我等の生業」
 ゲ ス ト：はせがわクリニック院長 長谷川隆さん

副会長挨拶

長瀬憲八郎副会長

次週7月19日の例会にて、クラブフォーラムで、委員長より年次報告があります。私も、1年の反省を、しなければいけないと思っています。

1番目に反省する点は、なごやか例会で何も覚えてない挨拶をしてしまった事です。お酒が好きで、特に日本酒は大好きです。いつも飲み過ぎてしまうので、泊まる時以外、外では飲まないように決めていました。ですが、少しの気の緩みで飲んでしまいました。今でも一番反省している出来事です。

2番目は、泉会長の欠席を手帳に記入するのを忘れて、欠席を知らずに例会に来てパニックになった事です。その日のゲストスピーカーである、名古屋学院大学の水野昌夫教授は、息子がお世話になっている先生でした。結婚式にも来て頂いたのに忘れてしまい、挨拶が出来ませんでした。また、話を振った義兄には子供の事を暴露される始末でしたが、気が動転していて、うわの空で話を聞いていました。以上の点を反省したいと思います。

最後に、1年間で10回挨拶させて頂きましたが、実のない話ばかりで申し訳ないと思っています。

1年間ご清聴ありがとうございました。

出席報告

酒井俊光出席委員

会員65名 出席47名 (出席計算人数47名)

出席率 82.5% 6月 5日は補填により 86.8%

幹事報告

亀井直人幹事

- ・本日13:40より、ヒルトン名古屋9階「つるの間」にてブラジル・サンパウロ国際大会の打ち合わせを行います。
- ・次週6月19(木)、第5回CF(委員会報告と次年度行事予定)を行います。

ニコボックス

酒井俊光ニコボックス委員

- ・本年度もなにかとありがとうございました。 越原 一郎さん
- ・6月26日で70才になります、よろしく。 長坂 邦雄さん
- ・シドニー世界大会では亀井幹事に大変お世話になりました。又、ゴールドコーストでは岩田修司さんと堀さんと楽しくゴルフをさせて頂き、堀さんは49ドルのレンタルクラブでアンダーで廻っていました。クラブにお金を掛けても同じでしょう！ 松波 恒彦さん

- ・長谷川先生の本日の卓話よろしくお祈いします。 鈴木 淑久さん
- ・内田さん、色々お世話になりありがとうございました。先日は長坂さん、伊藤豪さん、八木沢さん、楽しいひとときありがとうございました。 稲葉 徹さん

- ・堀さん、先日の荘川高原でのゴルフ大会では大変お世話になりました。お陰様で楽しいゴルフとおいしいお酒を大いに頂き、帰路は気持ちよく車の中で休ませてもらいました。 野崎 洋二さん

- ・暑くなりました。 内田 久利さん

- ・いよいよワールドカップが始まります。がんばれニッポン!!

山口 哲司さん

委員会・同好会報告

ゴルフ部会 6月度例会(第351回)

開催日:6月13日(金)

コース名:愛知カンツリー倶楽部

	氏名	グロス	HDCP	ネット
優勝	鈴木淑久さん	83	9.0	74
2位	山口哲司さん	75	0.0	75
3位	大嶽達郎さん	85	9.0	76

次回のゴルフ部会は、7月11日(金)に名古屋ゴルフ倶楽部和合にておこないます。また、総会が18:00より蓬萊軒本店にて開催されます。

卓話

はせがわクリニック院長 長谷川隆さん

ガーナにおける医療支援活動

現在アフリカにはBuruli潰瘍という難病があります。この疾患は子供の下肢などに大きな潰瘍を形成し、難治性で機能障害を残したり、時に切断にまでなったりしてしまふことがあります。

多くの患者がいるこの疾患は、比較的未開地に多く、発症の進行も遅く、生命予後は良い点から、現代医学の中では見過ごされてきました。この疾患の治療方法の開発、及び現地医師の指導目的で、最後は9年前ですが、西アフリカのガーナにWHOの依頼を受けて計4回患者の治療に行ってきました。日本ではなじみのないこの疾患は、西アフリカ、中央アフリカなど開発途上国を中心に東南アジアや主に熱帯雨林地帯に発症し、日本を含め世界30カ国から発症が確認されています。

発症数

実数は不明

世界では年間5000人の発症

ガーナ国内の1999年の疫学調査では6000人以上

特定の地域に特に多発

日本では現在まで42人

発症原因

結核やライ病と同じ抗酸菌の1種であるMycobacterium ulcerans

初発症状

- 1.皮膚の無痛性の硬結、浮腫
- 2.発熱は少ない
- 3.皮下組織内に広く浸潤
- 4.潰瘍を形成
- 5.治癒後の瘢痕化、醜形、拘縮

疫学的特徴

- 1.子供に多く患者の70%以上は15歳以下である
- 2.四肢特に下肢の伸側体表に大きな潰瘍を形成
- 3.水辺での感染が多くおそらく水生昆虫の関与
- 4.人から人への感染はない
- 5.人種や家族的に特異性はない
6. HIVなどの免疫不全はリスクファクターではない

難病である理由

- 1.治療薬がない
- 2.感染源や感染経路が不明である
- 3.唯一の治療が切除した上に皮膚移植
- 4.再発や重大な機能障害を残す

私が勤務していた名古屋大学では以前より再生医療、器官培養についての研究や治療を進めてきました。この中で培養表皮移植については臨床試験が終わり、実際の治療に応用が可能な段階となってきました。Buruli潰瘍との接点は、この疾患の治療方法が外科的皮膚移植術しかないことより要請がありました。

このプロジェクトで4週間ガーナに行き、実際に移植手術を行ってきました。今回培養表皮移植術を行った対象患者はBuruli潰瘍と診断された男性2名、女性5名の計7名でした。術後は5日ほどの創部安静の後創面を観察しました。上皮化に対する我々や現地医師の印象では自家皮膚移植よりかなり早い治癒が得られました。そのスコア評価では1週目の上皮化率平均は採皮部で93%、移植部で90%、2週目では採皮部で100%、移植部では99%と特に移植移植部創の上皮化が著しく早い結果となりました。この結果はWHOのプロトコルのvery effectiveと最も高い評価であり、すべての症例において問題となる所見は認められませんでした。

私は再度6ヶ月後に現地を訪れ、プロジェクト症例7例の評価をおこないましたが、全例良好な上皮化を認め、他家培養表皮移植のための組織拒絶による皮膚潰瘍や懸念された色素異常などについては全く問題がありませんでした。また自家植皮片採取部についても全く異常が認められず、黒色人種に多いとされる瘢痕形成ケロイド化も見られませんでした。培養表皮移植による欠損創面の上皮化が速く、このため瘢痕形成が少なかったのではないかと考えております。

培養表皮移植は感染に弱い、高価である、培養の施設や技術が必要などの問題があります。経済的には難しい患者の多くいる地域においては、医療施設の整った病院と呼べる施設は全くなく、衛生環境・手術環境の非常に悪い場所で、少しの麻酔のみで子供たちが患部の切除術を受けているのが現状です。また、これら手術を担当する形成外科医の不足から治療を開始しても遅々として進まず創の悪化をきたしています。

結核などと違い治療薬がない現状では、早期に発見すれば簡単な切除術だけで治癒する疾患が、放置されるために時間と共にひどくなり、手術で傷は治るものの、重大な機能障害や一生消えない傷跡が残る結果となります。



現在ガーナ国内ではWHOの提唱でBuruli潰瘍に対する啓蒙活動と地域における保健婦活動を開始していますが、患者数はなお増加しているのが現状です。

国際ロータリーニュース

視覚障害者のためのレシピブック

キッチンで、黒のエプロンをした女性が料理をしています。フライパンにトマトを入れ、ナスを刻み、小麦粉の量を確認して…。なんら変哲のないキッチン風景。でも、一つだけ特別なことがあります。それは、彼女が視覚障害者であるということ。

料理を通じて生まれる喜びと自信

"Good Smells From The Kitchen(キッチンからのいい匂い)"と題されたレシピブックは、視覚障害者のために作られた、点字の本です。きっかけは、トルコのロータリークラブが、視覚障害者のための図書館に点字作成機を寄贈したこと。それからクラブと図書館は力を合わせて、点字レシピと音声CDを作りました。ロータリー会員の配偶者も協力し、食品技術者、栄養士、レシピ考案者も加わって、みんなで味を確認しながら、点字レシピにするための100種類の料理を選びました。

点字レシピを受けとった人たちは、自らの手で料理できたことに感動し、新たな自信がもてるようになりました。

目を閉じたままで作れないならダメ!

目が見えない人の気持ちになる。

レシピの作成では、このことが最重要ポイントになりました。「材料をよく混ぜて」なんて簡単に言わずに、くわしく描写してあげることが大切。分量を伝えるにも、ただ「〜グラム」とするだけでは分かってもらえません。

ニンジンを賽の目に切る場合、あなたなら、どのように説明しますか? レシピ作成者は、視覚障害者も知っているボードゲーム「バックギャモン」に注目し、そのゲームで使うサイコロぐらいに切ってください、との説明を加えたそうです。さらに、実際に目を閉じながら料理をして、細かい修正を加えました。「今まで台所に立つことはあまりなかったけれど、料理に関心がもてるようになった」と、ある会員は振り返ります。

このプロジェクトでは料理クラスも開かれ、参加者には点字レシピと調理道具がプレゼントされました。ロータリー会員の配偶者が担当したクラスでは、親と子どもが一緒に参加しました。

今までにないプロジェクト

この点字レシピブックは、最も革新的なレシピブックに与えられる"Gourmand World Cookbook Award"を受賞。トルコ国内で最高の評価を受け、世界審査に回されました。また、テレビでも紹介され、トルコにある慈善団体によって「100 changemaker projects(変化を生んだプロジェクト100選)」に選ばれました。

現在、この点字レシピを追加で印刷するために、新たなスポンサーを探しています。追加印刷には150ドルが必要とされ、印刷されたレシピカバーの内側には、スポンサーの名前が記されます。

例会のご案内

■今週の行事 6月12日(木) 第5回クラブフォーラム
内 容: 委員会報告と次年度行事予定

■次週の行事 6月26日(木) 下期納会
時 間: 18:00~20:00
場 所: か茂免

■次々週卓話 7月3日(木)
テ マ: 会長挨拶
会員卓話: 岩田修司さん